



平成 30 年度 佐野小学校区 第 2 回地域コミュニティ連絡会のまとめ



作成：三島市役所 地域協働・安全課 きずなづくり推進室（TEL：055-983-2708）

11月8日（木）に開催された「平成30年度佐野小学校区第2回地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。当日の発言や意見をまとめた資料ができましたので、送付いたします。（三島市のホームページにも掲載しています）

■開催概要■

日 時	平成 30 年 11 月 8 日（木）19:00～20:40		
会 場	北上文化プラザ		
参加団体 (28名)	佐野自治会 見晴台自治会 三島市立伊豆佐野保育園 佐野小学校 佐野小学校 PTA 北上中学校	見晴台子ども会 学校支援地域本部 環境美化推進委員 体育振興会 スポーツ推進委員 消防団 第5分団	地域安全推進員 保健委員会 民生委員・児童委員 北上地区地域包括支援センター 三島市社会福祉協議会

■次第■

開会・市長あいさつ

- 1 「コミュニティ連絡会について」
- 2 「地域の情報を共有しよう」
- 3 「現在の状況を確認しよう」
- 4 「地域でできることを考えよう」
- 5 「話し合いの内容発表」
- 6 「アンケート記入」



「地域の情報を共有しよう」のまとめ

各団体間の情報やお願いしたいことなどを共有しました。

■主な情報交換の内容

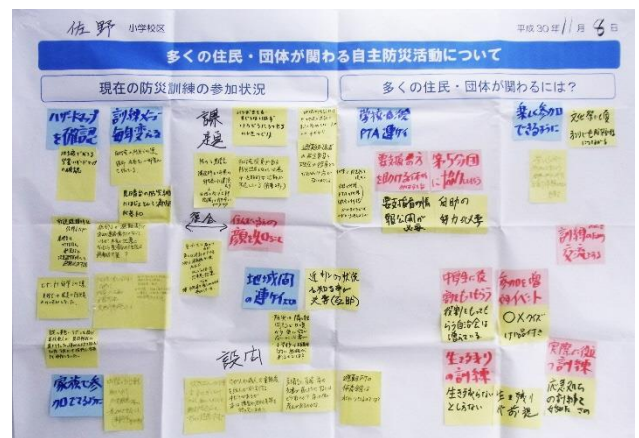
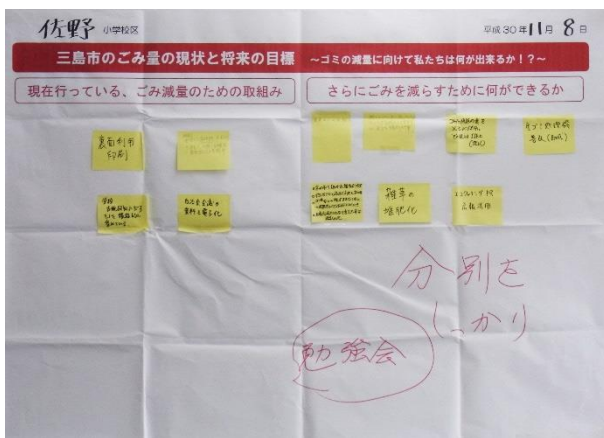
北上中学校	11月22日にオープン参観ということで一日授業公開を行います。2時間目には教科化される道徳の授業があり、10時30分～12時20分にはパントマイムの講演会、15時～16時にはバザーを実施しますので、是非お越しください。(なお講演会参加希望の方は教頭までご連絡ください。)
佐野小学校	1年生の自然体験活動の様子が三島市のFacebookの動画で公開されています。11月17日は佐野っ子祭り、PTAバザーを実施するので、ご参加ください。
佐野小学校PTA	11月17日のPTAバザーに是非お越しください。
北上地区地域包括支援センター	高齢者のことで困りごとがございましたら、ご連絡ください。
体育振興会	毎週木曜19時30分～21時30分に佐野小学校体育館にてトリム教室を開催し、ソフトバレー、バドミントン等を行なっています。運動したい方はお気軽にご参加ください。
消防団第5分団	消防団員が少ないため、団員を募集しています。
見晴台子ども会	12月8日にクリスマス会を予定しています。
社会福祉協議会	平成31年2月8日に佐野小学校にて地域の支え合い勉強会を実施しますので、是非ご参加ください。
学校地域支援本部	11月17日の佐野っ子祭りにて、12時から佐野後援会の方が集まり、情報交換会を開催します。
見晴台自治会	今年の夏祭りでは、中学生50名以上のボランティアに参加してもらいました。また、毎月第3日曜9時～10時30分まで、ボランティア清掃を実施しています。皆さまのご協力をお願いします。

「地域でできることを考えよう」のまとめ

今回の連絡会のテーマである「三島市のごみ量の現状と将来の目標」と「多くの住民・団体が関わる自主防災活動について」のうち、各参加者が希望するテーマを1つ選択し、各テーマに分かれて意見交換しました。

	ごみ量の現状と将来の目標
	自主防災活動

意見交換の結果の概要は次ページ以降に掲載しています。



■グループ別意見交換のまとめ

グループA

ごみ量の現状と将来の目標

現在行っている、ごみ減量のための取組

さらにごみを減らすために何ができるか

現在の取組み

■リサイクルしている

- ・裏面利用して印刷している
- ・毎月第1、第3月曜日に資源ゴミ(新聞紙、ダンボール、ミックスゴミ)のリサイクル(見晴台)

■業者回収を実施している

- ・学校で古紙回収に出すものを積極的に集めている

■紙の利用を減らしている

- ・自治会会議の資料を電子化している



何ができるか

●分別・リサイクルする

- ・資源ゴミの分別を行う
- ・分別をしっかりするための勉強会を行う
- ・燃えるゴミに混入しているミックス古紙を分別するなど、個別対策を実施する
- ・コピー用紙の裏をメモに使用し、その後は古紙へ

●生ゴミを減らす取り組み

- ・生ゴミ処理機の普及に向けて助成を行う
- ・エコクッキングをPRする

●ゴミ減量意識を高める

- ・ゴミ減量を広報する
- ・ボランティアという名目で市民の意識を高める
- ・市の取り組みは場当たりすぎ
- ・収集方法を突如変えた事が混乱のもと
- ・ゴミ袋が安い→予算がままならない→段階を踏んで改正していくべき
- ・雑草の堆肥化を進める

現在の防災訓練の参加状況

多くの住民・団体が関わるには？

現在の取り組み

■ハザードマップを確認している

- ・地域で発生する災害のハザードマップの確認

■訓練メニューを工夫している

- ・自治会の防災訓練は毎年内容を一部変えて行っている
- ・見晴台の防災訓練に補助として消防団が参加した
- ・マンネリ化とならないために、ブース毎に内容を変更して実施している
- ・各ブースに別れて色々な活動ができるように工夫している

例：消化器訓練、AED、はしごの使い方、応急処置など、子どもたちも楽しみながら参加している

■参加が限られているが、できるだけ参加している

- ・避難所設営訓練は見晴台からは役員及び防災員のみでの参加となった
- ・自宅に黄色いリボンを結び、家族数人が見目神社に集まり（参加の出欠をとった）、その後、子どもだけ佐野小学校まで移動した
- ・地域責任者が点呼をとって現在の状況を確認し、自治会へ報告
- ・一部の人員が小学校に集合し、止血法と骨折時の固定方法を学習

課題

=被災を考慮した現実的な訓練が必要

- ・指定避難所は佐野小学校だが、見晴台は地理的にみると指定避難場所への避難は不可能
- ・佐野小学校が避難場所や市との連絡場所になっていて、本当に地震が起きた場合、見晴台の住民は移動不可能ではないか
- ・けが人や病人の重軽度を住人が判別する手立てはあるのか、市は講習や研修等を行っているのか
- ・避難所の体育館は水に浸かるのでは

=普段からの意識・つきあいが大切

- ・今すぐには言わないが、行動にうつせる意識づくりを
- ・佐野と見晴台では、隣近所との平素の付き合いに課題があるため、日頃から向こう三軒両隣の付き合いが大切
- ・地域の防災訓練や地域の活動にまったく参加しない人への関わり方が課題
- ・避難支援者への民生委員と地区の役員との関わりがないのではないか

=地域間の連携が大切

- ・近隣の状況を知ることが必要
- ・防災は隣組同士で日頃から密に話し合いが必要
- ・訓練に関連性を強める必要があり、学校、PTA、自治会の訓練がバラバラで、いざという時に機能するかが心配
- ・住んでいる方の顔を知ることが大切

=中長期的な取り組みが必要

- ・自治会役員が自主防災担当となっているため、中長期的な活動が不足している（任期2年）
- ・炊き出し訓練はおにぎりだけでなく、市から期限経過品を提供してほしい
- ・見晴台に直接、市の支援が届くようにするにはどうするか

関わっていくためには

<学校・自治会・PTA 連携>

●要支援者の方を助ける体制づくり（見晴台）

- ・要支援者の情報公開が必要

●第5分団に協力してもらう

- ・自分の努力が必要

●中学生に役割をもってもらう

- ・役割を担ってもらう自治会が増えている

●参加を増やすイベントをする

- ・〇×クイズを景品付きで実施する

●生き残りのための訓練をする

- ・生き残らないと仕方ない
- ・生き残りをテーマとした訓練

●実際に役立つ訓練をする

- ・応急処置の訓練事項を始めた

●楽しく参加できるようにする

- ・文化祭でも夏祭りでも防災訓練につながる
- ・楽しく家族で参加できるように、簡単でわかりやすく全員で体験したい

●訓練のための交流をする

要望

○家族で参加できるように

- ・中学生の訓練も取り入れて、タンカ搬送等に参加させたい（車イス等利用可）